

来館しやすさと
楽しさを考える

10の

レッスン

聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人が
ともに活動した記録

みんなと美術館

長谷川祐子(金沢21世紀美術館館長)

美術館は、作品：物、事物が展示してある場所です。そこに皆さんが訪れて、それを同じ空間で鑑賞し、隣でみている人と共感したり、あるときは感じたことや意見を交換したりして、今自分が見たもの、体験したことを、自分なりの「知識、知恵」として体に染み込ませていく場所です。

私は「身体知」や「五感で学ぶ」という言葉は美術館での体験にとっても合う言葉だと思っています。書き言葉や話し言葉のほかに、身体の言語というものがあります。それは視覚言語や聴覚言語、味覚言語などにおきかえてもよいと思います。

来館しやすさ、楽しさというのは、そんな複合的な言語を自由につかえる場が用意されていて、アートを存分に体験したあと、自分の身体が虹色に染まって輝き始める、そんな感じのことをいうのだと思います。

私は世田谷美術館にいたとき、光の作品をつくるジェームズ・タレル(コミッションワーク《ブルー・プラネット・スカイ》の作家)の展覧会を全盲の女性のお客様を案内して歩いたことがあります。タレルは光は生きている、呼吸しているとよく言っていました。たくさん彼の作品を見ていた私はそのことがよく飲み込めていなかった。でもその女性の方に「ここまで光がきていますね」とか、「この光は赤とかオレンジの暖かい色の光ですね」と言われたとき、はっとしました。それがその方にはわかる、私とは別のところでこの作品の深いところに触れておられるのだと思いました。

聴覚の不自由な人たちはきっと振動やものの動きや、書いてあるテキストなどにとっても賢明で注意深い意識を向けておられるのではないかと思います。そして手話のやわらかでダイナミックで、てきぱきとした動きは、それらが平板な言葉の発話とはくらべものにならない豊かな、言葉を越えた身体言語となっていると思います。

お互いを理解すること、そして美術作品を通してその作家がみていた世界観や隣の観客がかんじっていたことを知ることで、自分の世界の理解がどんどん豊かになること。美術館はそんな場所なのです。今回の吉備エデュケーターを中心とした試みが、そんなとても基本的なことに私たちを気づかせ、新しい驚きと喜びの世界につなげてくれたことを館長として心から嬉しく思います。参加してくださったみなさん、そして指導、協働してくださった講師の方々に心からの感謝をのべたいと思います。

来館しやすさと 楽しさを考える

10の レッスン

聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人が
ともに活動した記録

金沢21世紀美術館では「誰にとっても来館しやすい、楽しい美術館はどんな場所?」というテーマについて、地域の人々とともに行動していきたいと考えています。その一環として、見た目ではわかりにくい身体的特性を持ち、手話をコミュニケーションに用いる「ろう者」と2018年度から映画上映会や作品鑑賞会、美術館の紹介動画制作などを実施してきました。

同じく2018年度には「新しい自分と仲間を見つける10のレッスン」と題した美術館ボランティアを対象とする講座を行いました。美術館、作品鑑賞、コミュニケーションについてゲスト講師と学ぶこの講座は、翌2019年度には「美術館がきつともっと面白くなる」という副題に変わり、ボランティアの自己研鑽に加え、市民講座としても開かれた場となりました。

コロナ禍にオンラインの活動が広まる中、2021年度の10のレッスンは、美術館散策、作品

鑑賞、身体表現、レッスンの様子を紹介する動画制作に取り組むことで、美術館にいる自分自身を認識し、経験を他者と共有する、そしてレッスン体験と日常生活のつながりを考えることで、美術館という場所へ親しみを感じてもらうことを目指しました。

参加者の募集案内に「コミュニケーション・サポート」として手話通訳や要約筆記、会話の見える化アプリ「UDトーク」、館内託児室の無償利用などを要望に応じて用意する旨を記載した結果、聞こえない・聞こえにくい・聞こえる39名の参加者と6組8名の講師が美術館へ集い、ワークショップを9回実施するに至りました。

「わたしと美術館」から「みんなの美術館」、そして「みんなと美術館」へ。聞こえ具合の様々な人たちが互いの感性や気づきを尊重し合い、ともに活動した「はじめての一步」としてのレッスンの記録をお届けします。

期間

2021年7月2日(金) - 2022年1月29日(土) ※5月から始動を延期。8・9月は活動休止。

全レッスンの基本条件

- ✓ 金曜と土曜に同じ内容で行う
- ✓ 定員：先着10名程度
- ✓ 時間：13:00-16:00
- ✓ 料金：無料
- ✓ 集合：金沢21世紀美術館 会議室1
- ✓ 150分のワークショップと30分の振り返りで構成
- ✓ レッソンの主な流れを伝え、講師・手話通訳者・スタッフ・参加者が自己紹介して活動を始めました。振り返り会は、参加者同士の意見交換と、「今度、美術館に来たら何か変わるかな?」「この経験と日常生活のつながりは?」を中心に、全体で発表を行いました。

(もくじ)

参加者募集チラシの知恵袋

P4

美術館を
お散歩しよう

レッスン
①
②

あるいて、しゃべって。
まるびい迷子センター

P6

P8

あなたとわたし、
違うからおもしろい
一緒に作品を
見よう

レッスン
③
④⑤

聞こえない人と聞こえる人の違いを知ろう
手話で見る・筆談で見る、
鑑賞プログラムを作ってみよう

P10

P12

表現力・想像力・
創造力を
アップしよう

レッスン
⑥
⑦

まるびいのイマジネーターになろう!
からだをきく、からだでみる。

P14

P16

字幕や
手話付き動画で
「10のレッスン」を
紹介しよう

レッスン
⑧
⑨

どうして作る? どう作る? 手話・字幕付き動画について
グループ制作&作品発表

P18

P20

クロージング・
トーク

レッスン
⑩

で、何しよっか?
来館しやすさと楽しさを考えた人たちで、実践してみよう

P22

手話通訳者・参加者・スタッフより

P24

10のレッスンの知恵袋

聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人たちが一緒にレッスンするために

P26

おわりに ともに、おかえり、その先へ

P28

※「まるびい」は「まるいびじゅつかん」である金沢21世紀美術館の愛称です。

参加者募集チラシの知恵袋

オモて面

中面

コミュニケーション・サポート

手話通訳

要約筆記やUDトーク

サポートがあるなら参加しようと思ってもらえるよう、イラスト付きで目立つ場所へ表示する。

みんなの美術館 みんなと美術館

来館しやすさと楽しさを考える

10のレッスン

2021.5.1

21世紀美術館

ワークショップ

発信する

一緒に発見共有

美術館の楽しさを

聞こえない人が

聞こえにくい

聞こえない

対象は聞こえ具合を問わないことを知らせる。

あります

館内託児室

お子さんを預けて参加しやすい環境であることを知らせる。

ウラ面

ウェブサイトから

※定員に達した場合

※「コミュニケーション」なお館内託児

申し込み方法は聞こえ具合を問わないウェブサイトからに一本化する。

美術館 託児室

8:00（金・土曜日は20:00）

曜日が休日の場合はその前年

利用促進のため、託児情報は詳しく記す。

参加の流れ

- 1 選ぶ
- 2 申し込み
- 3 参加し
- 4 参加した...

「みんなの美術館 みんなと美術館」とは

金沢21世紀美術館 託児室

お問い合わせ

20-8509 石川県金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2811 FAX 076-220-2806
E-mail event_k@kanazawa21.jp
Web www.kanazawa21.jp

金沢21世紀美術館 交流課 10:00-18:00

速野川

お問い合わせ

20-8509 石川県金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2811 FAX 076-220-2806
E-mail event_k@kanazawa21.jp
Web www.kanazawa21.jp

金沢21世紀美術館 交流課 10:00-18:00

速野川

電話でのやりとりが難しい方のためにも、メールアドレスやFAX番号を併記する。

みんなの美術館 みんなと美術館

来館しやすさと楽しさを考える

10のレッスン

美術館で多様な人と出会い、体験したことを次の何かにつなげてみませんか？

「みんなと美術館」に向けた「はじめの一步」をご一緒しませんか？

参加者と講師がテーマごとに集い、美術館の楽しみ方を発見・共有・発信するワークショップを開催します。「コミュニケーションサポーター」として手話通訳や要約筆記、UDトーク、館内の託児室の積極利用などを要望に応じてご用意します。

○こんな人にオススメ

- さまざまな人と互いを尊重しあう場に関心がある人
- 手話や要約筆記を介したコミュニケーションに興味のある人
- 美術館の楽しみ方を発見・共有・発信したい人

ひとつから参加可能（金曜か土曜を選択）

3回連続（金曜コースか土曜コースを選択）

2回連続（金曜コースか土曜コースを選択）

ひとつから参加可能（金曜か土曜を選択）

2回連続（金曜コースか土曜コースを選択）

10のレッスンの紹介しよう

レッスン1 あるいて、しゃべって。

レッスン2 まるびい迷子センター

レッスン3 聞こえない人と聞こえる人の違いを知ろう

レッスン4 手話で見る、手話で見る

レッスン5 鑑賞プログラムを作ってみよう

レッスン6 まるびいの「ママジネター」になろう！

レッスン7 からだをきく、からだでみる。

レッスン8 どうして作る？ どう作る？

レッスン9 グループ制作と作品発表

レッスン10 クロージング・トーク

全レッスン共通	各回定員	開催時間	料金	集合場所
先着10名程度	13:00-16:00(開場12:45) 10:20(金)から14:00-17:00(開場13:45)	無料	金沢21世紀美術館 会議室1	

※「まるびい」「まるびい」ワークショップである金沢21世紀美術館の要請です。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、内容の変更し（中止）となる場合があります。

ひとつから参加可能

受付開始

3回連続（金曜コース）

受付開始

ひとつから参加可能

受付開始

2回連続（金曜コース）

受付開始

さまざまな人と互いを尊重しあう場に関心がある人

手話や要約筆記を介したコミュニケーションに興味のある人 ※経験不

美術館の楽しみ方を発見・共有・発信したい人

参加してほしい人物像を優先順に表示する。

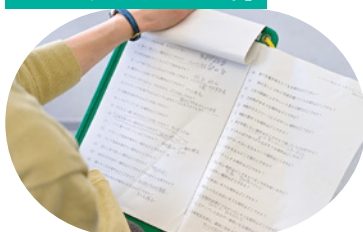
内容に合わせて「単発」と「連続」の受講条件を設ける。

レッスン 1

あるいて、しゃべって。

美術館の広場や建物の中をいろいろな人と見てまわりながらおしゃべりしましょう。今までと違った見方を体験できるかもしれません。

「ひとりであるいて。」



場所に対する35種類のイメージを聞く通称「スパルタシート」と館内地図を持って一人旅へ。運命の人と出合いそうな場所、ゾワとする場所は……?



さとुरりさ(メダムK) 2011

感想発表

「ふたりであるいて、しゃべって。」

「ここでお昼を食べたい」「私にとってここは気がついたらいるなあという場所」など、お互いの違いを知る楽しさと驚きの時間。



「誰かのためのおすすめルートガイド」を2人で考える



涙が枯れた人のためのルート、人生に迷っているルート、この興奮をなんとかしたい人のためのルート、など。

地図制作



「体調の悪い人が回復するためのポイントは3つ。人混みを避ける。ポットでできる。体に負担をかけない」



発表 おすすめルートの

講師



柏木 陽 Akira Kashiwagi

(NPO法人演劇百貨店代表)

1993年から劇作家・演出家の故・如月小春に師事。2003年、特定非営利法人演劇百貨店設立。全国各地の劇場・学校などで、子どもたちと独自の演劇空間をつくり出すワークショップも行っている。

参加してみて

スパルタシートのおかげで、何度も来ている美術館が新鮮に見えた。次に来た時にはシートの残りの項目についても考えてみたい。今日の経験を日常生活へつなげるとしたら、例えば嫌いな家事にスパルタシートみたいに視線を変えて取り組む工夫を自分でやってみる。

(50代女性/金沢市)

最後のお話で、間違っても良いというお話を聞いて、とても納得でき、心が軽くなった。

(20代男性/金沢市)

同じ場所に対して人の持つ印象がいろいろだということがわかった。今度美術館へ来たら、他の班の人が考えたルートを通ってみようと思った。例えば学校版スパルタシートを考えてみたら面白そう。

(20代男性/金沢市)

コロナで自宅にいると自分自身の考えが固まってしまう。ワークショップで人に来て考え方を知り、世界が広がった。

(40代女性/金沢市)

講師より



皆さんが美術館に来て楽しんでくれたこと、そのこと自体がこの場所を豊かにするんです。美術館に来たぐらいで日常生活はそんなにすぐ変わらない。それが普通。それで良い。でも「あの人、どう考えるかしら?」なんてふっと思い出してもらえたなら、大きなお土産ですよね。そんな流れが生まれたら、私は涙がちよちよぎれるほどうれしいです。(柏木 陽)

運営メモ

館内を散歩するペアワークを始める時、ろう者の参加者から手話通訳者の同行はなくても大丈夫と申し出がありました。様子を見守っていると、2人で目と目を合わせ、筆談や身振り

手振りで話し合っていました。情報保障がある安心感を土台に、参加者同士が通じ合おうとする姿勢こそが、アクセシビリティ(参加しやすさ)の第一歩だと感じました。



レッスン 2

まるびい迷子センター

楽しく迷子になりながら、この美術館をもう少し身近に感じられる「カギ」を一緒に見つけましょう！

講師



photo: Yuki Moriya

和田ながら Nagara Wada

(したため・演出家)

2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動始める。同世代との合同企画や異なる領域のアーティストとの共同作業に積極的に取り組んでいる。

「迷ってなんだろう？」



迷子になりやすい人が「道に迷うと、目的地に着かない不安感がある」と発言すると、和田さんから「まるびいでは空間をどう把握していますか？」と質問が続く。

迷子になりきって、自分の迷子地点を1つみつける



自分の迷子地点を発表



迷子なので、具体的な場所の名前ではなく、その雰囲気と見えたものを2つだけ発表する。

自分の迷子地点を隣の席の人に探してもらおう



「見えるのは壁だけ、照明は暗い場所」ってどこだろう……？」

迷子地点の答え合わせ



ヒントをもとに推測した迷子地点を発表。無事に見つけてもらえて喜ぶ迷子が何人も。

振り返り

手話通訳者が3つの班に1人ずつ入って意見交換。



参加してみてもいいかな

美術館のイベントに、美術に詳しくない人が参加していいのかと最初は不安でしたが、誰でも参加できる内容で、メンバーも幅広い世代の人がいて交流できたのが良かったです。

(30代女性/金沢市)

みんなの迷子地点をメモしていたのですが、振り返り会の時に聞こえない方から「メモって聞きながら取るものなんですよ」と言われてハッとしました。お互いの違いに気づきあえる場所があるのはいいことだなと思いました。

(50代女性/金沢市)

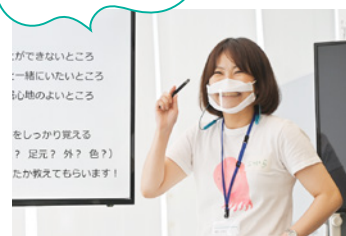
相手にきちんと情報を届けるためには、自分の頭で言葉を選んで届けることが大事だと思います。

(40代女性/東京都)

今日は8人中5人がろう者と難聴者で、いろいろな工夫があつて過ごしやすかったです。例えば館内を自由に歩く時、美術館のスタッフと手話通訳者がペアだったので、聞きたい時に質問できたのがよかったです。ワークの説明は言葉だけでなく、前で何人かが実演するとイメージしやすいと思いました。

(40代女性/東京都)

講師より



迷子を演じながら、皆さんがお互いに伝える／伝わるということをすごく感じてくださったんだと思いました。限られた情報で人の想像力をくすぐることができる、コミュニケーションがぐっと面白くなる。言葉だけじゃ説明できない風景も広がりますね。聞こえない、聞こえづらい方とのワークショップを手話通訳者もいる形で初めて体験できて、私自身とても勉強になりました。(和田ながら)

運営メモ

UDトークを初導入したところ、四苦八苦。マイクで話す内容が正確にモニターへ表示されるよう、用語を事前に登録したり、本番中はパソコンで文字を修正する担当を確保したり。講師・

手話通訳者・参加者・進行役が交代で話すため、マイクは何本?どこへ設置する?など、便利な技術を活用するには相応の準備が必要だと実感した初回レッスンでした。



あなたとわたし、違うからおもしろい 一緒に作品を見よう

レッスン 3 聞こえない人と聞こえる人の 違いを知ろう

美術館がモーレツに好きな聞こえない西岡さんと、
手話でブンブンお話しできる和田さんと作品鑑賞に挑戦しよう！

「聞こえない人が
得意そうなこと、
苦手(不便)そうなこと」
を書いてみよう



合理的配慮とは、障害は
どこにあるのか、について。



「障害と社会」
講義1(和田)

講義2(西岡)
「聞こえないこと」

聞こえない人の日
常や聞こえない人
の発想から生まれ
たものの紹介。



講義3(西岡・和田)
「聴覚障害者とは」

聞こえない・聞こえにくい
人のコミュニケーション、
ろう教育について。



講義4(西岡・和田)
「手話の紹介」

挨拶の手話、手話の
長所について。



グループワーク
「手話で見る」

「屋上に見える金色の人は何をしているの?」。
グループに分かれて場所を変えながら作品を
鑑賞。ポーズを真似したり、表情を想像したり。

手話を交えて作品を見た気づきを
共有し、遠くに見えた作品《雲を測
る男》の細かい部分を写真で確認。

感想
発表



講師

西岡克浩 Katsuhiko Nishioka

「美術と手話プロジェクト」代表。
さまざまな人が集う文化施設などの
空間づくり、ユニバーサルミュージ
アム活動、ダイバーシティ関連研修
の運営などに携わる。



和田みさ Misa Wada

「美術と手話プロジェクト」
メンバーの手話通訳士。
聞こえない人ならではの感
性で鑑賞できるプログラ
ムづくりに強い関心をもつ。



参加してみても

昨日、自分の自己紹介を手話でできる
ように練習した。実際に参加したら、特
別な準備はそもそも必要だったのか
な?と改めて考えるきっかけになった。

(20代男性/金沢市)

聞こえても聞こえなくてもそれぞれ持
つイメージは自由で、自分の見方を
持っている。それをみんなで共有し
合って、新しいことに取り組む場があ
ることが大切だと思った。

(40代女性/金沢市)

鑑賞ワークについて、進行役の人がいてく
れよかった。うまくて、いつの間にか体が動
いて、何かを言いたくなる鑑賞を体験で
きた。調子に乗って動き
すぎて疲れた。手話通訳のタイミングが
わからなくて間合いが難しかった。話
したくてしょうがない状態になっ
たけど、止められた。でも楽しかった。

(50代男性/東京都)

普段、美術館では静かにしなくちゃい
けないと思って静かに作品を見ている。
手話だと賑やかに意見交
換をしながら見るができるから、感
想を言い合えて楽しかった。

(40代女性/金沢市)

講師より



今回、皆さんがこういった「学び合う場」に慣
れている印象を持ちました。講義していると、
聞いてくれている人の反応があるとす
ごく話しやすいんです。手話を交
えた鑑賞ワークでは、他の人の意見
を「なるほど」と尊重しつつ、「私はね」と
自分の意見も発表する。みんな
で楽しむことをみんなで無理せず
やっている姿に感動しました。(和田みさ)

運営メモ

グループワークを始める時、手
話通訳者から「発言する前に手
を挙げてくれると、次に誰の話
が訳されるのか、ろう者が理解
しやすいですよ」とアドバイス
がありました。いざ始まると、

「ちょっと待ってください」と制
される場面も。話し終わったら
すぐ次の人が発表するのでは
なく、手話通訳の区切りが
つかないか確認する心のゆとり
が大切だと気づいた回でした。



あなたとわたし、違うからおもしろい 一緒に作品を見よう

レッスン 4・5

手話で見る・筆談で見る、鑑賞プログラムを作ってみよう

美術館がモーレツに好きな聞こえない西岡さんと、手話でブンブンお話しできる和田さんと作品鑑賞に挑戦しよう！



講師

西岡克浩・和田みさ
(美術と手話プロジェクト)

美術と手話プロジェクトとは、NPO法人エイブル・アート・ジャパンに事務局を置く市民有志によるプロジェクト。「美術」「美術館」「手話」「聞こえない人・聞こえにくい人」をキーワードに、さまざまな人たちがゆるやかにつながり、だれもが楽しく豊かに鑑賞できる環境づくりを目指している。

グループワーク 「筆談で見る」



2班に分かれ、「コレクション展2 BLUE」の展示室で静かに個人鑑賞。

イー・イラン
「オラン・ブサル・シリーズ」

作品を見て 思ったことを 吹き出しパネルに書く



ふせんにコメントを
書いて貼り合う

吹き出しパネルを 貼った模造紙の上で筆談



吹き出しパネルと同じ色のペンを持って、コメントを足していく。見えるおしゃべりの賑やかなこと！

「必死の表情 彼女はどんな気持ち？」という吹き出しに「落ちる不安？」「実は嫌？しぶしぶ……」などのコメントが。



「ないものはつろう！」。誰もが楽しく豊かに鑑賞できる環境づくりの事例紹介後、西岡さんから金沢でもぜひ！とエール。

感想発表



「講義
「美術と手話プロジェクト」

参加してみて

書くことを通して、躊躇せずに気持ちを外に出せる感じがかった。

(30代女性/石川県)

会話の連鎖が言葉で見えて繋がっていくのが面白かった。和田さんにどうして途中で「絵もいいよ」と言ったのか聞いたら「最初は自由に書いて欲しかった。ペンの動きがゆっくりになったので絵の要素を加えた」そうで、なるほどと思った。

(40代女性/東京都)

私は今大学で研究をしていて、「美術館と手話」というキーワードに惹かれて今回参加しました。こういう企画を知らないだけで興味を持つ人はいると思うので、参加した一人ひとりが「こんなのあったよ」って知らせていくことが大事だなと思いました。

(20代女性/東京都)

参加者の熱い思いや視点に触れるディスカッション、良かったです。ぜひに全てのレッスンに参加させてもらっていると、個々の表情や考えの変化もダイレクトに見ることができ、うれしく新鮮な思いです。

(30代女性/金沢市)

講師より



2歳の時に聞こえなくなって以来、他の人と違う自分がイヤでした。それを変えたのは、母と美術館へ行った経験です。いろんな作品を見て、人と違っていいんだ、人と同じことをやるのはつまらない、と思うようになりました。これから金沢や北陸で、聞こえない人も一緒に作品を見る機会が地域の人によって生まれたいいな。その時はぜひ参加したいです。(西岡克浩)

運営メモ

他の来場者の妨げにならないよう、今回は比較的広い2つの展示室を選択。ファシリテーターの2人とスタッフで、作品との距離感やふせんワークを行う

位置などを事前に確認し、レッスンの様子を他の来場者にも見える形で共存できるようにしました。盛り上がり作品の群衆図を真似るひとときも。



レッスン 6

まるびいの イメージネーターになろう!

まるびいで出会う作品には想像を豊かにする創造の種があります。頭の中にあるイメージを「視覚身体言語」で伝えてみませんか。

イメージに触れる



今回のグランドルールは「無音」。しゃべらない、手話を使わない。南雲さんの身ぶりや表情を真似するところからスタート。

見立てのワーク1



想像したものを顔や手や身体で表現し、頭の中にあるイメージを伝え合う。

イメージネーション キャプションを制作

作品を見て想像した世界を1人が身体の動きで表し、それを見た人がどんな物語なのか想像して透明パネルに描くペアワーク。



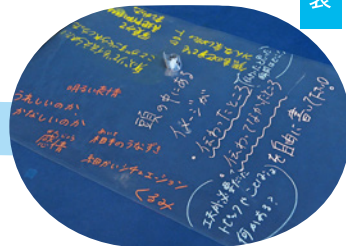
見立てのワーク2



美術館の広場で撮影した写真を見て、「小人の自分がいるとしたら?」と、場所との関係性やスケール感、身体の動きを想像する。

感想発表

「身体全体がこぼになる感じ／呼吸で伝わる瞬間があった／色の表現は難しい」など、無言で書き出して気づきを共有。



まるびい イメージネーションツアー

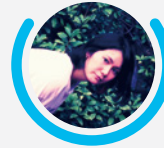


2人1組で想像した作品世界を発表し合う。

講師 signed 2018年に発足した、視覚身体言語を研究・表現する3人のユニット。

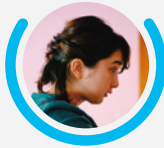
南雲麻衣 Mai Nagumo

3歳半で失聴、7歳で人工内耳埋め込み手術を受ける。文化施設の運営や企画の仕事の傍ら、ダンサー、アーティストとしても活動する。



和田夏実 Natsumi Wada

ろう者の両親のもとで手話を第一言語として育ち、大学進学時にあらためて手で表現することの可能性に惹かれる。様々な知覚を起点に感覚がもつメディアの可能性について模索、遊びを中心に展開する。



参加してみても

お互いがわかってという気持ち1つで集中すれば、パーフェクトではなくても十分にわかり合えるのが、なんと楽しいことだったか。

(70代女性/金沢市)

聞こえる人には声で伝わるイメージが強いが、今日は無音で、身ぶりで伝えることができてうれしかった。色や形を伝えるのが難しくズレが生まれた。

(10代男性/金沢市)

サインームで呼び合ったり、気兼ねなく話しかけられたり、参加者同士見知らぬ他人の距離をぐっと近づけることができ、若いお2人の感性ならではの催しだったのではないかと思います。言葉ではなく、身体を使うことで普段思っていることとは違う視点を見つめることが出来ました。

(40代女性/金沢市)

私とあなたの経験は違うから、わからないこともあるじゃないですか。そういう時に、どうやったら伝わるのかな? 音声言語と手話、両方使わないことで考えるきっかけになりました。

(40代女性/金沢市)

講師より



相手の伝えたいカタチがわかった! という実感や受け取り方の違いなど、お互いに共有しながら対話できる時間を作ったことで、よりイメージネーションが深まっていくのを感じました。(南雲麻衣)

お互いの視点や表現の仕方を知る。いつもと違う身体の使い方をすることで、見え方も変わる。それにゆっくり馴染んでいく3時間でした。(和田夏実)

運営メモ

身体表現を伴う活動を丁寧かつ安全に行うために、「定員を各回5名に減らす/参加者全員が透明マスクを身につける」という提案が、講師からありました。「話さない

のに口元が見える必要あるのかな?」と思いつつ人数分のお揃いマスクを準備すると、お互いの表情が見えやすく、一体感も生まれたような……。



表現力・想像力・創造力をアップしよう

レッスン 7

からだをきく、からだでみる。

これまでのレッスンで慣れ親しんだ美術館と、美術館にいる自分の身体への新発見と再発見を楽しみましょう(初来館の人も歓迎です)。

からだをきく



言葉に頼らず、身体で3秒間の自己紹介。広場へ移り、自分の身体に触れて、やさしく扱いながら身体に立ち返る時間。

自分と見知らぬ人、それぞれ美術館で何をしている?どんなふうにか?

記入 ワークシート 「からだ」



からだでみる

「写真の場所を探して、拡大された2つの文字を意識して動いてみましょう」



「からだカード」

2人が「鎖骨/カタカタ/喜ぶ」といった身体の部分や動きのカードを差し出し、残りの1人が表現する。

からだカードを 使って発表



からだカードを2枚持って指定された場所へ行き、1分間の表現タイム。2班交代制。

感想発表



講師

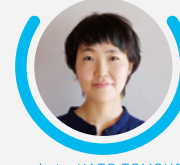


photo: KATO TOMOKO

なかむらくるみ Kurumi Nakamura
(ダンスアーティスト)

ソコダンスby KURUMI NAKAMURA主宰。国内外の美術博物館や県内の福祉施設を拠点にワークショップを実施。さまざまな人の身体之美しさを社会に魅せる作品を制作・発表している。

参加してみて

最後の私のからだカードは「こそこそ」だったので、誰にも見られないようにしていたつもりだけれど、実は発表を大勢に見られていて、びっくりしちゃった。レッスンへの参加を積み重ねて来たことで、今日は自分を解放できた。すごい!

(60代女性/加賀市)

言語以外の表現に興味があり、参加しました。自分をまず開放しなければならない内容で、頭がかたまっている自分にとって少し難しかった(自分の枠がはずせなかった)ですが、最後の方でようやく、やわらかくなったかなという瞬間があり、楽しめました。日々の生活の中でも少しやわらかく過ごしてみようかと思っています。すぐかたまる。1つの言葉で人の数だけの表現があるなあと感じました。

(50代女性/神奈川県)

今日は自分が感じたことを大切にしていと言われて、普段はまわりに意識が向きすぎて、いかに自分の身体に必要なことをしているのか、突きつけられた。ダンスを見る時に面白がっていることを自分もやってみたら、奇をてらおうとしていないのにこうなってしまうという新しい発見があって面白かった。

(30代女性/小松市)

講師より



しゃべっている時とパフォーマーになった時の皆さんの様子が別人格で、見ていてすごく楽しかったです。からだで表現する経験には普段のコミュニケーションにも活かせる要素が詰まっていますが、「ダンス」という単語ゆえに参加を迷う人もいます。そこで新しい肩書きを参加者へ相談したところ、「カラダ媒介人」という案をもらいました。これから使わせていただきます。(なかむらくるみ)

運営メモ

言葉を見て身体で表現することで、頭と心と身体を繋ぐ回路をフル回転させたレッスン。手話通訳者が「身体表現の通訳は苦手かもしれない。講師本人を見てもらおうと思った」と話

していたのが印象的でした。からだカードを使う時は、言葉の意味ではなくカードを見るよう促す通訳をしていて、参加者同士の息が合っているように見えました。



字幕や手話付き動画で「10のレッスン」を紹介しよう

レッスン 8

どうして作る？ どう作る？ 手話・字幕付き動画について

レッスンでの発見・共有の様子を伝える方法として、活動の記録映像に手話や日本語字幕を加えて発信しましょう。 ※事前のレッスンに1回以上参加した人が対象

講師



廣川麻子 Asako Hirokawa
(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)

1994年日本ろう者劇団入団。英国研修時の体験から「みんなで一緒に舞台上を楽しもう」を合言葉に2013年に観劇支援団体シアター・アクセシビリティ・ネットワークを設立。近年はNHK「手話で楽しむみんなのテレビ」、True Colors Festivalなど映像における情報保障の在り方を研究実践中。

講義

「手話・字幕付き動画」



手話や文字で視覚的に情報を発信する意義やメリットについて問いかけ、事例を紹介。

レッスン7までの
活動振り返り



グループワーク



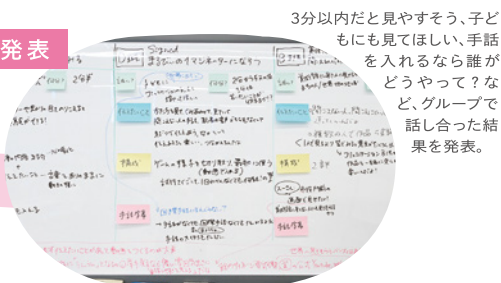
レッスン1、2、3-5、6、7と、5種類のレッスンを紹介するため、金曜・土曜と合計5つの班に分かれて活動。動画で一番伝えたいことは何だろう？



(50代女性/金沢市)

(70代女性/金沢市)

中間発表



3分以内だと見やすそう、子どもにも見てほしい、手話を入れるなら誰がどうやって？ など、グループで話し合った結果を発表。

参加してみても

中間発表を聞いて、私にとってレッスン1のスパルタシートは「始球式」だったな、と思い出しました。1人でシートを持って歩いた後に2人になって、私はここでこう思ったの！ って伝えたいし、相手の話も聞きたい。2人とも同じ体験をした仲間だからリラックスできて、それもこれもわかる～って、共感の連続になったのを思い出しました。

与えられた課題は初体験の分野なのでどうなることかと思いましたが、チームメンバーが気持ち良く言いたいことをドンドン出しあえたと思います。手話通訳の方やまるびいスタッフにもとても助けられて、指示された時間内にそれなりの案をまとめられたのは奇跡のようでした。チームのろうの方は話することができる方で、つい彼女が聞こえないのを忘れてました。私が話しかけた時、彼女の目は私ではなく手話通訳の方を見ていました。私に手話ができれば、彼女は私を見て、私たちは《対話》ができるのですが……。

講師より

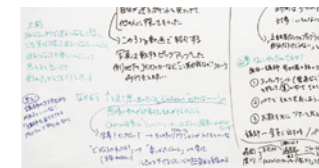


金曜・土曜と参加日は違っても、各レッスンで教わった内容は一緒でしたよね。同じ気持ちが伝わった、違う面もあったかな？ いろいろな発見があったでしょう。今後さらに伝えたいことがはっきり出てくると思います。会話したことがどんどん積み重なっていったのが、見ていてすごく楽しかったです。ぜひそれを動画制作につなげて行ってください。(廣川麻子)

運営メモ

毎回のレッスンでは参加者の感想発表などを板書し、文字化することを心掛けていました。この回はうっかり緑のペンで板書してしまい、

参加者から「読めないよー」の声。聞こえを問わず、見やすい方法で情報を整理することは、アクセシビリティの第一歩です。



字幕や手話付き動画で「10のレッスン」を紹介しよう

レッスン

9

グループ制作 & 作品発表

講義1



前回のグループワークをふまえ、スタッフが編集用の動画を準備。切り抜きやつなぎ合わせなど、調整方法を説明。

グループワーク1

編集用の動画から「私たちのベストシーン」を選択する。



グループワーク2



ベストシーンに文字情報を加え、シーンの入れ替えや間合いにも工夫を凝らす。

講義2



文字や手話で情報を整理・追加する目的と方法について。

作品公開と感想発表



一番伝えたいことが伝わったかな……?

おわりに



手話の指文字が描かれたクリアファイルをプレゼント。

講師



廣川麻子

(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)

NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)は、2013年設立。広く一般市民を対象として、演劇などの舞台における情報保障(聴覚障害者向け字幕・手話通訳など)の環境整備、調査研究・開発、情報提供と利用機会促進に寄与している。

参加してみてもいいよ

講師が話した言葉をそのまま伝えるか、キーワードにするか迷った。短い言葉はわかりやすい反面、内容を知らない人には状況を含めて整合性が取れないかな?と思ったり。今から映像にもっとどんどん手を入れたい!

(50代女性/金沢市)

体験した側が当たり前知っていることを無意識のうちに言わなくてもわかってしまった。参加していない人にはここに映っている情報が全て。誰が話しているということも含めて、情報が足りなかった。

(20代男性/金沢市)

未体験のことを経験させてもらいました。きれいに用意された材料で調理実習をちょこっとさせてもらったような感じで、申し訳ありません。編集で字幕を入れるだけでも4人4様の考えがあり、話し合いで進めていく大切さも学びました。

(50代女性/金沢市)

講師より



一人ひとりの思いを大切にしながらグループで話し合う、できましたか? 1人で全部作ると早いですが、でも自分だけで作ると、わかったつもりになる。他の人が見た時にどう思うか?一緒に作る、伝える、伝わることを、これからも考えてください。字幕を作るのは簡単ではないです。それを体験することで、字幕があると伝わりやすくなる気づきを得たと思います。ここの美術館にもいろんな映像作品がありますよね。字幕がないな、あったらいいのに、など、聞こえる人からも意見を発信してってください。今回の新しい体験を大事にしてくださいね。(廣川麻子)

運営メモ

リピーター対象のレッスンへの参加理由は「動画制作に興味がある/経験したことを人に伝えたい/新しいことにチャレンジしたい/字幕や手話付き動画の作

り方を知りたい」など、さまざまでした。動画編集ソフト未経験者が多かったため、スキルのある複数の学生スタッフがフォローしながら進行しました。



レッスン 10

で、何しよっか？ 来館しやすさと 楽しさを考えた人たちで、実践してみよう

事前のレッスンに参加した方と講師、美術館スタッフによる意見交換会

進行



吉備久美子 Kumiko Kibi
(金沢21世紀美術館エドゥケーター)

2003年10月に金沢21世紀美術館建設事務局へ入局、2004年度より現職。
美術館が共生社会の一つのコミュニティとしていかに機能するか、芸術文化
を通じた社会参加の実践と地域連携に取り組んでいる。全国手話検定2級。

「手のひらシート」



利き手の掌が上になるように置いて輪郭をなぞり、紙の左側に「10のレッスンへ参加した理由」、手のひらの中に「参加して手に入れたもの」を書く。

テーブルごとに 意見交換



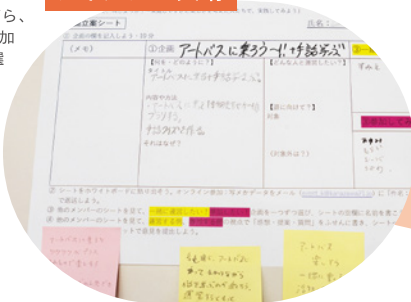
活動振り返り レッスン9までの

「企画立案シート」



シートを見て回りながら、一緒に運営したい、参加したい企画を1つずつ選び、ふせんを貼付する。オンライン参加者とはZoomのチャット欄やメールを活用して一体感を出す。

アイデアの共有



美術館で散歩する、筆談で作品を見る、身体を動かすなど、レッスンを思い出しながら、自分が企画するのなら、誰に何をどのように、それはなぜ？

手のひらシートの右側に「今日、参加して手に入れたもの」を記入。最後に10のレッスンへ参加した感想を1人30秒ずつ発表。

振り返り



参加してみても

企画立案シートに書いたアートバスのアイデアを来年度ぜひ実現したいです。「一緒に運営したい!」と名前やふせんをくれた人、よろしく願います。みんなの参加、待ってます!

(20代男性/金沢市)

企画する側は大変だなあ……。来る機会の少ない人たちに美術館の楽しみ方を伝える気軽な方法っていろいろあるんだな、と仲間のシートを見て気づけた。

(50代女性/金沢市)

参加者がそれぞれに、「誰に向けて」の対象と除外の人について真剣に考えていたのが印象的でした。視覚障害者にも楽しんでもらいたいが物理的に無理ではないか、それでも何か方法はないか、その理由で除外にするのはどうか、と意見が出ました。私は盲ろう者の介助に関わることがあります。見えなくても聞こえなくても映画を見ることもあります。障害の状況もそれぞれでコミュニケーションの方法も触手話や指点字など様々です。そんなふうにみんなで考えられたことがよかったです。最後の「はじめの一步」、希望あふれる一歩でした。

(60代女性/加賀市)

進行役より



レッスン9で配布した新しいアートバス(団体見学の無料送迎バス)のチラシに、申し込み方法が電話のみとなっていました。ろう者からの「電話だけだと申し込めない」という指摘を報告した結果、美術館のウェブサイト「TEL・E-mail・FAXで問い合わせ可」と表示されました。皆さんと「来館しやすさと楽しさ」を考えた結果、変化が生まれています。(吉備久美子)

運営メモ

最終回にして初のオフライン&オンラインのハイブリッド型レッスン。美術館とオンラインの双方にろう者がいて、どちらにも手話通訳が必要な状態でした。全体進行とテーブルごと

のグループワークに対応するため、タブレット3台、パソコン2台、大型モニター1台を準備し、音声も適宜切り替えました。運営方法の新たな気づきを得て、閉幕しました。



手話通訳者より

発言前の挙手、手話通訳が終わってから話し始める、など、対話の工夫が継続的に実践されていたのが印象的でした。回を追うごとに参加者やスタッフの皆さんが習慣づけてくださり、円滑な進行につながりました。集う人たちの雰囲気や講師の発表内容に刺激を受けました。

チームの一員として手話通訳者も打合せから参加し、講師やスタッフと一緒に0から1を創るワクワク感がありました。聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人がともに活動するには、当事者だけでなくあらゆる視点が必要なのだと実感しました。



活動の進め方やルールの説明、また、参加された一人ひとりの感想などを、手話通訳を通してお伝えし、聞こえる・聞こえないにかかわらず参加していただくためのお手伝いをしました。その上で、参加者同士が感覚的・視覚的な表現を頼りに交流する場面では、手話通訳を介さずとも活き活きと交流ができるよう促す役割として見守りもしました。誰から誰に向けての通訳か、通訳が必要な場面かどうかなど、活動内容ごとに通訳の立ち位置や役割が違って、事前の打合せや確認、情報共有の大切さを実感しました。

参加者より

何も考えずに思い切って一步踏み出して申し込んだ自分を褒めたい。来るたびに「おかえり」と言ってもらえるのがうれしかったです。

一人ひとり違う意見がある。会うことが大事で、他の人の気持ちに寄り添うことの重要性を実感しました。

レッスンを通して、これからの人生で人と関わっていこうという思いが強まった。

日常生活を過ごす中で「あの人だったら、こういう時どうするだろう？ どうしたいだろう？」という視点を持つことができる、そういう力がつくレッスンだよ、と参加したことのない人に教えてあげたい。

人と話すことは、相手はもちろんのこと、自分を知ることなんだろうな、これって何をするにも大切なことだな、と気づきました。

コミュニケーションは話し言葉だけでなく、手話や身体でもできると知りました。

スタッフより

大学院1年目の今年は、美術館のインターンシップ研修生としてフィルム映画祭の運営リーダーをやりながら、アルバイトとして10のレッスンの記録映像を担当する「21美Year」でした。会議室で話し合う時の椅子の距離感や向き、本題に入る前のアイスブレイクとしての会話などは、自分が映画祭のミーティングを進行する時の参考になりました。

(記録映像・吉川永祐)

皆さんの豊かな表情や身振り手振りが魅力的で、毎回撮影枚数が多くなりがちでした。印象的だったのはレッスン9の土曜の回の会場レイアウト。2班の話声と動画の音が混ざらないようにテーブルを離してパソコンの向きを変えた結果、記録係が動きやすいスペースが生まれました。それは手話通訳者の立ち位置確保にもつながり、一石三鳥となりました。

(記録写真・中川暁文)

世代を超えた新たな友人がたくさんできて、これは宝だな～としみじみ思っています。

コミュニケーションはやっぱり楽しい。私はこれを機に手話を学び始め、英語の再勉強を始めました。

これまでに参加した人、これから参加した人、まだすぐには参加しない人、興味のない人、このレッスンとの関係性は人それぞれだと思いますが、金沢21世紀美術館にこのレッスンがある、これがコンスタントに起こっているというのは、先に挙げた全ての人に対して意味のあることだと思います。

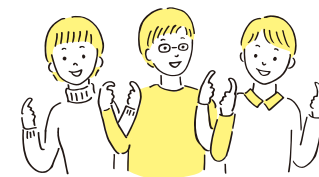


今春、私は大学を卒業し、4月からは公務員として他県の博物館か美術館に勤務します。このプログラムにアルバイトとして関わって役得でした。これだけ準備しないと楽しい場は作れないことを実感して就職できる自分は幸せ者です。

(アシスタント・多田明加)

講師ごとに中身が変わるレッスンの、前日の打合せ、当日午前の準備と予行演習、終了後の振り返りというルーティンを通して、集うみんなの仲間意識が育ちました。いろんな考えや特徴を持つ人たちと、1つの目標を元に、場の状況を考え、受け入れる姿勢が、参加者の方々にも身に付いているように感じました。新しいものが生まれるきっかけになったらいいなと思います。

(アシスタント・塚本浩子)



1人ではできないこともみんなで知恵を出しあったり話し合ったりすることで、可能性が見出せることを感じた。自分を含めて個人の考えの狭さが大きなネックになるのだな、と気づかされた。

10のレッスンの知恵袋

TIPS

聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人たちが一緒にレッスンするために

TIPS
1

コミュニケーション・サポート情報をチラシ等の目立つところに入れる

〈ヒント〉
なんでも見える化!



手話通訳やUDトークがあれば安心という方のために。

TIPS
2

申込みはウェブサイトから

電話でのやりとりが難しい方のために。



TIPS
3

受付は指差し確認で

名乗らなくても済むよう、来たら名前の横に○をつける。



「自由席です」などの決まりごとは書いて見えるようにしておく。

TIPS
4

照明を点滅させて開始の合図

「始めます!」と声で伝えず、目で確認。



TIPS
5

話を始める人は挙手して、なるべくゆっくり1人ずつ話す

挙手すると、誰が話しているのか、手話通訳が誰の話を伝えているのか、わかりやすくなります。通訳しやすいよう、ゆっくり順番に話します。



TIPS
6

板書やUDトークを活用する

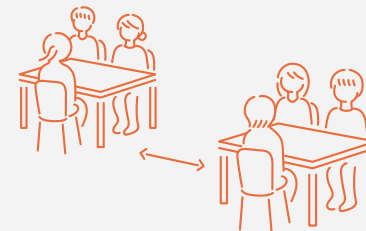


誰が何を言っているか見える、振り返れる。

TIPS
8

席の位置や距離に気をつける

話し声が混ざらない環境づくりの工夫と、「聞こえにくくないですか?」と参加者へ確認する心のゆとりが大切。



TIPS
10

終了後、講師・手話通訳者・スタッフ全員で意見交換会

それぞれの立場から振り返り、記録に残すことで、次へ活かせます。

(おまけ)

透明マスクにすると口の動きや顔の表情がわかってよい。

※一方で聞こえづらい人からは声がかくもって聞きづらいという意見も。

TIPS
7

活動内容によって手話通訳者の役割と位置を変更

音声を手話で通訳する時は話し手の横に。ろう者が手話で話す時は、それを正面で見て手話を読み取り、音声で発表します。



TIPS
9

グループの構成に工夫を

聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人の人数バランスが取れていると、活発なやりとりが生まれやすい。



これからも発見はつづく……

ともに、おかえり、その先へ

吉備久美子（金沢21世紀美術館エデュケーター）

2021年8月8日、夜8時。東京オリンピックの閉会式が始まった。NHK総合テレビは見慣れた生中継だったが、Eテレでは左に中継画面、右に手話通訳者が1人映っている。開会式では式典のスピーチのみに手話通訳がつき、それは会場のスクリーンに映ったもののテレビ中継はなかった。多様性と調和の推進を謳うオリンピックの始まり方に対して、全日本ろうあ連盟をはじめとする関係者が「ろう者の第一言語である手話言語の尊重」を求めて抗議・要請した結果、閉会式に続いて東京パラリンピックの開閉会式の中継に手話通訳がつくことになったと、後日知った*。

当事者が字幕や手話通訳などの情報を選択でき、聞こえ具合を問わず時差なく一緒に楽しめる。「みんなの美術館 みんなと美術館 来館しやすさと楽しさを考える10のレッスン」の7ヶ月間は、この「ともに楽しむ」方法と、そこでの在り方、そしてその先へ思い描くビジョンを広め、深めていく時間だった。

スタートは7月の「レッスン2 まるびい迷子センター」。講師、発表する参加者、進行役は前方中央に立ち、その右手にモニターと手話通訳者が続いた。マイクで話した言葉は音声認識して文字化するコミュニケーション支援アプリ「UDトーク」によってすぐにモニターへ映され、その横で手話通訳も行われる（fig.1）。ろう者が発表する時はマイクを手話通訳者へ渡し、手話を読み取って音声で訳してもらう（fig.2）。UDトークに初めて接した聞こえる参加者は一様に驚いていた。終了後、「丸く向かい合って座ると遠い席の人の声が聞こえにくいことがあったが、モニターのおかげで助かった（fig.3）」と声をかけられた。誰かのための工夫は他の人のためになることを実感するレッスンの始まりだった。

通常、手話通訳は2人1組15分交代で行われる。初回ということもあり、前日の打ち合わせに2人、当日は3人の手話通訳者を派遣してもらった。その結果、参加者同士の振り返り会では3つの班に1人ずつ手話通訳を配し、少人数でじっくり話し合うことができた（fig.4）。初めて美術館の活動に参加した手話通訳者は「前日に打合せができたので、

当日は安心して臨めた」と語り、ゆとりある人員配置と事前の情報共有は、準備の基本となっていた。

臨時休館を経た10月の再開館時には、オンライン方式への切り替えを相談した。しかし「来館しやすさと楽しさを考えるためには、対面を前提に方法を検討したい」との意見が複数の講師から挙がったため、結果的に全レッスンを美術館で開催した。これを実現するには当館でボランティアやアルバイトの経験があるスタッフの存在が不可欠で、ここでの気づきが美術館の他の活動で応用される循環も生まれた。

参加者39名中7割がリピーターとなったため、秋以降は受付で「おかえり」「ただいま」と声や手話で挨拶し、参加者同士が旧交を温め合う姿があった。ろう者のY君は小学4年生の時に学校の招待事業で来館し、その後も手話付きの企画へ参加してくれる10年来のリピーターである。以前Y君から「県外のろう者ともっと交流したい」と聞いたことが、今回ろう者の講師を招く原動力となった。乗り物好きのY君が新しいアートバスのチラシを見て、申し込み方法が電話だけと知って驚き、残念そうな表情を浮かべたことが忘れられない。「なぜ電話だけなのか？」という彼の質問を報告したことがきっかけで、E-mailやFAXでも対応が可能となったことをレッスン10で伝えたところ、会場に拍手と歓声が響いた。1人の提言が変化を生んだ実感を持って企画立案シートを作成し、アイデアを共有した参加者同士の機運の高まりが楽しみである。

レッスン2の講師・和田ながら氏は「ファシリテーションの経験が浅いアーティストでも、手話通訳やUDトークを含む美術館側のサポートがあることで、多様な属性の人を対象とするチャレンジングなワークショップが可能になるだろうと感じました」と活動後にメールをくれた。「みんなと美術館」の「みんな」の幅広い解釈と実践は、これからも続いていく。

*「手話放送の実績増やそう〜東京オリンピックの情報保障から考える〜」日本聴力障害新聞、2021年9月1日



fig.1



fig.2



fig.3



fig.4

「みんなの美術館 みんなと美術館

来館しやすさと楽しさを考える10のレッスン

- 期 間：2021年7月2日(金)-2022年1月29日(土)
- 主 催：金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
- 助 成：一般財団法人地域創造
- 協 力：社会福祉法人石川県聴覚障害者協会、NPO法人子育て支援さくらっこ

講 師： 柏木 陽(NPO法人演劇百貨店)、和田ながら(したため)、
西岡克浩・和田みさ(美術と手話プロジェクト)、
南雲麻衣・和田夏実(signed)、なかむらくるみ(ソコニダンス)、
廣川麻子(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク) ※レッスン順

企 画 運 営： 吉備久美子、森 絵里花(金沢21世紀美術館)

アシスタント： 木村菜緒、志賀生和、多田明加、塚本浩子

記 録 写 真： 青山啓佑、中川暁文

記 録 映 像： 川瀬末季、吉川永祐

動 画 編 集： 吉川永祐

手 話 通 訳： 石川県聴覚障害者センター、村山春佳(美術と手話プロジェクトサポーター)

広 報： 落合博晃、石川聡子、齊藤千絵、本多瑠美(金沢21世紀美術館)

活動の様子を紹介する動画はこちら

https://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=68&d=5



〈参考：過去の活動記録〉

冊子

「みんなの美術館 みんなと美術館
金沢21世紀美術館×手話×ろう者
活動のあゆみ」
(2020年3月発行)

https://www.kanazawa21.jp/files/AMuseumForAll_andWithAll_2019.pdf



動画

「手話で紹介する金沢21世紀美術館」
<https://youtu.be/nuQJcRRQQBI>



金沢21世紀美術館維持会員

SANAA事務所	株式会社竹中工務店北陸営業所	株式会社インプレス美術事業部
米沢電気工事株式会社	一般社団法人石川県鉄工機電協会	株式会社甘納豆かわむら
ナカダ株式会社	石川県勤労者文化協会	ArtShop 月映
金沢市農業協同組合	前田印刷株式会社	株式会社アドバンス社
株式会社福光屋	株式会社うつのみや	金沢ターミナル開発株式会社
ヨシダ宣伝株式会社	公益社団法人金沢市医師会	株式会社計画情報研究所
金沢信用金庫	連合石川かなざわ地域協議会	株式会社ビー・エム北陸
株式会社総合園芸	株式会社金沢環境サービス公社	一般社団法人石川県繊維協会
西日本電信電話株式会社金沢支店	株式会社日本海コンサルタン	株式会社大和
株式会社ヤギコーポレーション	株式会社アイ・オー・データ機器	アムズ株式会社
株式会社北國銀行	石川県中小企業団体中央会	株式会社あまつぼ
一般社団法人金沢建設業協会	能登印刷株式会社	ヨシダ道路企業株式会社
ニッコー株式会社	株式会社金沢舞台	株式会社金大
医療法人社団 健真会 耳鼻咽喉科安田医院	北陸名鉄開発株式会社	イワタニセントラル北陸株式会社
株式会社メープルハウス	高桑美術印刷株式会社	未広フーズ株式会社
株式会社マイブックサービス	株式会社浅田屋	北陸スカイテック株式会社
公益財団法人金沢勤労者福祉サービスセンター	北菱電興株式会社	株式会社浅田屋
株式会社浦建築研究所	株式会社四緑園	森平舞台機構株式会社
金沢中央農業協同組合	株式会社橋本清文堂	アズビル株式会社
株式会社グランゼーラ	カナカン株式会社	株式会社五井建築研究所
まつだ小児科クリニック	株式会社かゆう堂	金沢セメント商事株式会社
公益財団法人高岡市勤労者福祉サービスセンター	株式会社バルデザイングループ	ホクモウ株式会社
アルスコンサルタンツ株式会社	石川県ビルメンテナンス協同組合	医療法人社団映寿会
しま矯正歯科	株式会社山田写真製版所	合同会社 鮎 みつ川
協同組合金沢問屋センター	株式会社ほくつう	株式会社山田写真製版所
一般社団法人MuU	株式会社グッドフェローズ	株式会社ユニークポジション
三谷産業株式会社	日本海警備保障株式会社	株式会社鍛冶商店
スーパーファクトリー	株式会社金沢商業活性化センター	株式会社東急ハンズ金沢店
株式会社エイブルコンピュータ	株式会社加賀麩不室屋	坪田 聡
株式会社中島商店	べにや無何有	林橋舎アップルカンパニー
株式会社橋本確文堂	日本ケンブリッジフィルター株式会社	アイバブリッシング株式会社
ヨシダ印刷株式会社	日機装株式会社	株式会社ホクスイ
株式会社北都組	横河電機株式会社金沢事業所	株式会社コネル金沢
金沢市一般廃棄物事業協同組合	有限会社芙蓉クリーンサービス	
金沢商工会議所		

(2022年3月現在)

みんなの美術館 みんなと美術館
来館しやすさと楽しさを考える10のレッスン
聞こえない・聞こえにくい・聞こえる人がともに活動した記録

企画・執筆：
吉備久美子、森 絵里花（金沢21世紀美術館）

編集：岩本歩弓

デザイン：
砂原久美子（石引パブリック）

イラスト：
北口加奈子

印刷：
大村印刷株式会社

発行日：
2022年3月29日

発行：
金沢21世紀美術館【公益財団法人金沢芸術創造財団】
〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

無断で本書の全体または一部の複写・複製を禁じます。
©21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa All rights reserved.
ISBN 978-4-903205-98-4

本書は下記のダウンロードサイトにて
PDF閲覧できます。
[https://www.kanazawa21.jp/files/
AMuseumForAllandWithAll_2021.pdf](https://www.kanazawa21.jp/files/AMuseumForAllandWithAll_2021.pdf)



金沢21世紀美術館